



「きゃべつの会」は京都市下京区・南区にお住まいのがん患者さん、ご家族がお茶を飲みながら交流し生きる力を取り戻す「地域の患者サロン」（下京西部医師会主催）です



## 挨拶

一般社団法人 下京西部医師会  
会長 中野昌彦

きゃべつの会の皆様、この会を主催しております下京西部医師会の会長をこの6月から仰せつかっております中野昌彦と申します。降ってわいた様に会長になりましたのできゃべつの会に関して、現在、関係各位の話を聞きながら、また、過去の刊行物を読み返しながら勉強中の身であります。

がん、という言葉のドイツ語訳の Krebs (Krebs)、英語訳の Cancer (Cancer) の語源はいずれもギリシャ語のカニを意味するカルチノウスと言われております。がんという言葉もこれらの訳語であるカニと同様に文字通り固い印象を我々に感じさせます。

医療界において、この病気及びこの病気を取り巻く環境は、この言葉と同様に固い印象に満ちていると私には思えてなりません。この病気と上手に付き合っていくためには、この固い印象、雰囲気ばかりでは決して望ましい結果が得られにくいと考えます。

この会は、医療者と患者様及びその家族の皆様が、胸襟を開いて気軽に何でもお喋りをし、お互い新たな気付きがあり、寄り添うことが出来る、そんな場であられます様、関係者一同努力している所でございます。今後ともいろいろご指導、ご指摘を宜しくお願い致します。



## 『胃がん・大腸がんで死なないで』

こんにちは。下京西部医師会 医療法人しばじクリニックの柴地です。当院のコンセプトは「胃や大腸がんでの死亡をゼロにする」です。先日、国立がん研究センターより、がん生存率が0.6%引き上がったというニュースがありました。2005～08年にがんと診断された人の10年後の生存率は58・9%。これは、2004～07年の前回調査と比較すると生存率が0・6ポイント上昇しました。また11～13年にがんと診断された人の5年後の生存率は68・9%と前回調査よりも0・3ポイント高まったようです。これは医療に携わる者としては大変喜ばしいニュースと思う反面、まだまだ低い数字のように思います。がんは早期発見・早期治療が肝要なことと思います。私が診療している胃・大腸がんの場合は早期で見つければ5年生存率は90%を超えます。胃や大腸の検査は辛いと思われませんが、現在は検査を楽に受けられるよう工夫をしている医療機関もありますので是非一度検査を受けてください。胃がんや大腸がんを防ぐことは現在の医療ではまだまだ難しいですが、早期発見・早期治療で胃がんや大腸がんでの死亡を0に」を目指しましょう！



## きゃべつの会 報告

コロナ禍での実行委員会行はすべてWEB開催でした。コロナ禍で人と接する機会が制限され、患者会が開催できない状況がつつきました。患者会の皆様に「きゃべつの会」の活動を知っていただくよう、会誌発行・ホームページ作成・ポスター作製などを行いました。来年度は「きゃべつの会」を開催し皆様とお会いできる日が来ることを願っております。

### 《2021年度 実行委員会 活動内容》

- ・きゃべつの会 実行委員会 (WEB会議)  
2/24、4/28、6/23、8/25、10/27、12/22
- ・きゃべつの会 会誌発行  
12月 第1号 (初回)  
3月 第2号 (担当：京都南病院担当)  
6月 第3号 (担当：康生会武田病院)  
9月 第4号 (担当：京都九条病院)  
12月 第5号 (担当：下京西部医師会)
- ・ホームページ作成  
内容：きゃべつの会会誌掲載  
皆様へのメッセージ動画掲示 (YouTube)  
患者会からののお便り掲載  
・暑中見舞い送付  
・ポスター作製

(2021年12月完成予定)

前田クリニック 前田康秀



お願いします

LINEでお友達に  
なりませんか？

【友だち登録にはLINE アプリが必要です】

- ① スマートフォン等でQRコードを読み取ってください。
- ② ID検索LINE アプリで「友だち追加」「ID検索」で「@903NUYTA」を入力してください



ID: @903NUYTA

発行：一般社団法人下京西部医師会

〒601-8452 京都市南区唐橋  
堂ノ前町15-9 エステート南ビル301  
☎075-693-3900 📠075-693-3911



実行委員からのメッセージ 「きゃべつの会」にご参加ください



◆医療法人啓生会やすだ医院 安田雄司

現在2人に1人ががんになる時代です。私が医者になった40年前には「がんになったらもう終わりだ」と悲観的になり、がんの告知すらできませんでした。しかし、今はロボット縮小手術だけでなく抗がん剤・放射線治療の著しい進歩に免疫療法を加えた患者さん個々のオーダーメイド治療の時代に入りました。比較的早い時期にがん治療を行えば治る時代です。「きゃべつの会」へはがんと闘った方の懇親会と思って気楽に参加ください。

『通勤で通る地下街の階段から見上げると、ビルとホテルの間から空が見えます。色々な空がありますが、少しの幸せを感じながら毎日過ごしています。皆さんはいかがお過ごしですか?』

康生会武田病院 患者サポートセンター  
杉本美和

◆新京都南病院 外科 廣間文彦

きゃべつの会に心よせてくださる皆様コロナが流行してから、きゃべつの会が開催できなくなっており心苦しい限りです。患者さんの会は、病院での診察や治療と違って、患者さん同士が話ができる場として、貴重な場であったので、早く再開できるようになることを期待しています。期待だけでなくコロナの沈静化にごくごく微力ながらできることをしていきたいと思います。またきゃべつの会でお会いできる時を楽しみにしています。

『今年は紅葉を楽しむ余裕が少しできましたね。まだ油断はできませんが、来年に向けて少しでも繋がりを感じられる関わりや場づくりが出来ればと思っています。皆さまと安心して再会できることを心待ちにしています。』

京都九条病院 前田留里



『病院では長らく面会制限が続いています。当たり前の病院の日常はコロナ禍によって奪われ、会うことの意味、そして大切さを考えさせられます。一刻も早く、きゃべつの会が開催されることを心から願っています』

京都南病院 吉岡真弓



◆京都九条病院 外科 北川一智

自分自身ががんになったり、近しい人ががんになったり。そうした時にがん慣れていて人はあまりおられないと思います。困った時に気軽に立ち寄れる場所、それがきゃべつの会です。まずはホームページをご覧ください。

下西事務所からのお知らせ

きゃべつの会のポスタが完成しました！  
どこに貼ってあるか見つけてくださいね



◆康生会武田病院 呼吸器内科 永田一洋

コロナ禍で、不安な方も多いと思います。がん患者会の活動は停止状態ですが、患者同士のやりとりの橋渡しになれないかと、会誌、ホームページを工夫しています。  
皆様にお会いできることを楽しみにしています。

きゃべつ会のLINEに投稿して下さった写真です。



◆宇治徳洲会病院 医師 川上 明

『きゃべつの会のみなさんこんにちは。病気のことばかり考えさせられる1年でしたがちょっとここで気分転換。「だまし絵」(右記A)というのをご存知でしょうか。そのだまし絵の深い意味は? 次回会誌でお話しいたしましょう。』

A

